

杜陵高が3位 はんが甲子園

第25回全国高校版画選手権大会（はんが甲子園）の本選は19日までの5日間、新潟県佐渡市で開催され、本県の杜陵定時制が3位相当の佐渡市長賞に選ばれた。

テーマは「佐渡は生まる」で、全国13校が出場。同校美術・イラスト部の佐藤雛歌さん（4年）、桜小路宗良さん、橋場健太さん（2年）の3人は「新穂に轟く春の音『4月14日』」と題し、佐渡の伝統芸能「鬼太鼓」を描いた。

作品は縦86センチ、横55センチの木版画。太鼓を打ち鳴らす躍動感ある鬼の背景にトキが飛ぶ青空を描き、動と静を表現した。

3人は現地取材で126種類の鬼太鼓があることを

知り、衣装や舞に引かれた新穂地域の団体を題材に選んだ。「4月14日」は同地域の祭りの開催日。

2年連続で出場した佐藤さんは「鬼の髪の毛など細かい部分にこだわることが

できた。昨年は奨励賞だったので入賞できてうれしい」と声を弾ませ、顧問の金井保彦講師（73）は「どのチームよりも早く仕上げた。よく集中していた」とたたえた。

最高賞の文部科学大臣賞は静岡・伊豆伊東が受賞した。



佐渡市長賞に選ばれた（左から）桜小路宗良さん、佐藤雛歌さん、橋場健太さん